

患者さんへ

臨床研究に関する情報

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、病理診断後、当院に保管されている検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] IgM陽性形質細胞浸潤が主体の尿細管間質性腎炎（IgM-PC-TIN）についての臨床病理学的解析

[研究代表者名・所属] 市立札幌病院 病理診断科 辻 隆裕

[研究の背景と目的]

IgM-PC-TINとは、2017年に福井大学の研究チームが報告した新しい腎臓の病気です。この病気は、中年から高齢の女性に多いことが知られています。そして、原発性胆汁性胆管炎という肝臓の病気や、シェーグレン症候群という自己免疫の病気が合併することが多いことが知られています。この病気には、様々な特徴がありますが、日本でまだ十分に知られていないため、正確な診断を受けていない方も多いと考えられます。

私たちの研究では、腎臓に炎症が起きる症例や、腎臓移植後の拒絶反応に関する症例を対象に、このIgM-PC-TINという病気の詳しい特徴を調べることを目指しています。

[研究の方法]

1. 対象となる患者さん

当院で2004年4月1日～2023年3月31日の間に当院で尿細管間質性腎炎または移植腎急性拒絶反応と診断された患者さん

2. 利用するカルテ情報

- ・患者背景：性別、年齢、合併疾患の有無
- ・血液検査の結果：

蛋白尿の指標となるもの(蛋白尿量)

腎機能の指標となるもの(血清クレアチニン)など

3. 利用するその他の試料

- ・腎凍結切片検体ならびにパラフィンブロック検体、電顕ブロック検体

(過去に診断目的に採取され、検査終了後から現在まで当院で保存されているものを用いさせていただきます。)

- ・病理プレパラート
- ・電子顕微鏡画像

[研究実施期間]

実施許可日～2026年3月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

*上記の研究に検体・情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[当院の連絡窓口]

〒060-8604 札幌市中央区北11条西13丁目1-1
市立札幌病院 病理診断科 辻 隆裕
電話：011-726-2211 FAX：011-726-9541